

◆生活作文の書き方◆

岡崎市現職研修委員会 国語部

毎日のくらしの中で心が動いたり、自分が変わったこと、文章に書いてみましょう。書くことで、自分の心の成長や周りの人たちの思いに気付いたり、世の中を見る新しい考えにたどりついたりします。思い出して作文にするには、少し努力が必要ですが、ぜひチャレンジしてみてください。「どう書いたらいいのかな？」と、こまっている子へアドバイスです。



◆よい作文のポイント



①題材は身近なものを…何気ない生活の中に、あなたの心が動いたしゅん間があるはずです。



おもしろかったこと、くやしかったこと、大切にしていること……。その中で変化した自分を感じることは、文章にしてみる値打ちがあります。

②組み立てメモを…原稿用紙にいきなり書き始めると、うまくまとまりません。何を、どのような順で書くか考えてから、まず組み立てメモをつくりましょう。物事の始まりと



つくりよう

終わりを決めて、その中にいくつかが連なっているかを書き出しましょう。

③五感を使おう……そのときの様子をよく思いだすことがいちばん大切です。読み手に伝えるために、言葉を選びましょう。よく見ることはもちろんですが、どのような音やにおいだったのか、さわった感じや、食べたり飲んだりした味も大切なポイントです。会話文も、場面の様子や人間関係をはつきりとさせましょう。そして、視覚①・聴覚②・嗅覚③・味覚④・触覚⑤の、人間のもつ五つの感覚をたっぷり使って書けるといいですね。



④自分の心の成長を……文章のはじめと終わりで、自分の成長（心の変化）が読み手に伝わっているか、ふり返ろう。確認しましょう。

★これまでに「文集おかげさき」にのった作品の題名です。参考にしてみてください

- ・ぼくはお兄ちゃん
- ・はじめてのおつかい
- ・わたしのきれいな木よう日



- ・ぼくのアゲハチョウ
- ・十年後の私と梅酒
- ・おねえちゃんみたいになりたいな



◆詩や説明的文章にもチャレンジングを

何気ない生活の中で、あなたの心がぐっと動いたしゅん間を切り取って、短いことばでリズムにのせて表現してみましょう。口ずさんでみると、そのときの気持ちや浮かんでくるような、そんなことばで表現ができる、すてきな「詩」になつていくと思います。

また、テーマを決めてじっくり観察や実験、取材をすることができたら、結論までの筋道を証拠を示しながら書いてみましょう。資料として表やグラフ、写真などをつけて表現すると、「説明的文章」です。

ただし、インターネットなどの資料を勝手に使用することは、禁じられています。せっかく自分で書く文章なのだから、資料も自分で手作りしましょう。

◆「これは、せつたいにダメー」



他人の文章をそっくりまねたり、そのまま写したりするのは、とてもいけないことです。また、インターネットで得られた文章や資料をそのまま使うことも法律で禁じられています。どうしても引用したいときは「」を使って、読む人にここを引用したというところをはっきりさせる必要があります。作品を書く上で参考にしたものがあんならば、「参考文献」として、その本の題名を作品の後ろに必ず書いておきましょう。

自分の思いや考えを自分自身のことばで表現してこそ、すべての文章と言語の力です。